

2020年11月5日

令和2年度 中学校教育専門部会研修会報告書

【日時】2020年11月5日（木）静岡県私学会館 5階会議室

13:00～ 受付

13:30～13:35 開会式 部会長挨拶 星野明宏（静岡聖光学院中学校・高等学校 校長）

13:35～16:05 講演

演題「New Normal な“資質 学び”」

講師 聖学院中学校・高等学校 教諭・新コース設置統括長 田中潤先生
質疑応答、グループワーク

16:05～16:15 諸連絡・アンケート記入・閉会

【講師プロフィール】広尾学園中学・高等学校にて教科部長・教務統括部長、三田国際学園中学・高等学校にて学習指導部長・教頭を経て、2020年度より聖学院中学・高等学校にて新クラスの構想及び設置を新クラス設置統括長として担当。21世紀型の学びの推進を行っている。

【研修内容】

Q1：コロナ前、コロナ急行中、現在それぞれで、学校の存在意義は変化していますか？

→何のために学校があるのかのバリュープロポジションを持っているかどうかがとても重要。

“正解を出す力”に価値はない。明確な「答え」がない時代に教育・学びはどこに向かうのかを考え続けることが大切である。

⇒各グループでは生徒のための学校を意識した意見交換が行われた。

学習指導に関してはICT機器の導入により、提供の仕方に変化のある学校が多数。

行事を通しての体験・経験の大切さを改めて考えさせられるきっかけとなった

対面のコミュニケーションの重要生、集団でしか学べないこともある。

ICTはツールであり、存在意義は変わっていないのかもしれない。

といった意見がでた。

→産業革命以降重要視されてきたこと

- ・正解を探す・予測する・KPIで管理する・生産性を上げる・ルールに従う・綿密に計画し実行する
- ・奪い・独占する・経験に頼る

であったが、これからの時代は

- ・問題を探す・構想する・意味を与える・遊びを盛り込む・自らの道徳に従う・とりあえず試す
- ・与え・共有する・学習能力に頼る

事が大切である。それに伴い、2030年に必要とされるスキルベスト10は

1位 戦略的学習力、2位 心理学、3位 指導力、4位 社会的洞察力、5位 人類学、6位 教育学

7位 協調性、8位 独創性、9位 発想の豊かさ、10位 アクティブラーニングであり、人と人との関わりや相互に働く力、主体性を育む教育の重要生を感じた。

*ただ教えるのではなく、リアルで教える価値、オンラインで教える価値、教育とは何か？福祉的価値を見出し、学校の存在意義を再定義する時代になった。

『新しい時代の思考サイクル』 “Spark joy”というワクワクしながら生きる状態になること
当たり前を疑う → 常に自身をアップデートする → “個”として協働する → 当たり前を疑う

『学びの実践例』: 学びの魅力を “ 問い ” を使って引き出す

◎聖学院や三田国際の数学・理科・体育の授業の実践例を動画で見た。

Input (履修主義・効率化) から Output (習得主義・深化)

知識吸収型から発信型に重点をおく

①Extensions 価値作り、課題の解決?

どんな価値を新たに導き出せるか? どうすれば一般化できるか?

どうすれば効果が最大になるか?

②Connections 知識と知識をつないで活用

もしそうだったら? もしそうでなかったら? ~にもかかわらず、そうなのかなぜか?

なぜ必要・重要なのか? そもそもなぜそうするのか?

③Ideas 基本的な知識の定着

言い換えると? 本当にそうなのか? 成り立つ条件は? そもそも? (由来)

これからの学びは [理論の世界、公式の世界、演習の世界] と [現実の世界、実生活、SDG s] が生徒の中で循環するようにしていくことである。どちらかに偏ることなく正解のない課題に向かって考え、対話を繰り返し、自分も他者もアップデートし続けられる環境を提供していく。

学び続ける大人は満足度が高いというデータから Learner を育てることが学校として求められる。

「青春とは人生のある期間を言うのではなく、心のありさまを言う。優れた創造力、逞しき意志、燃ゆる情熱、怯えを退ける勇気、安易を振り捨てる冒険心、これを青春という。年を重ねただけでは人は老いない。理想を失う時に初めて人は老いる。」というサミュエル・ウルマン『青春』の言葉で研修を終了。